「年頭のご挨拶」

国民健康保険中央会
会長　岡　﨑　誠　也

新年あけましておめでとうございます。

平成二十三年の新春を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

我が国の社会保障制度の財政運営は極めて厳しく多くの課題に直面しており、特に国保財政は、構造上の脆弱性に加え、最近の経済情勢からも非常に厳しい状況であることは、日頃皆様が痛切に感じておられると思います。

このような中で、政府では、平成二十年度から始まった後期高齢者医療制度を廃止し、地域保険としての一元的運用の第一段階として、高齢者のための新たな制度を構築する方針を示し、厚生労働省の高齢者医療制度改革会議において議論を行ってきました。七十五歳以上の高齢者を従前どおりの国保と被用者保険の被保険者に戻し、国保分については都道府県単位で財政運営を行う等の内容とする法案が、今年の通常国会に提出され、平成二十五年春から施行の予定となっております。

いずれにしろ、今後も高齢化の進行に伴う医療費の増大が見込まれる中で、国保の運営や財政にどのような影響があるのか、具体的な制度設計の動きを注視しながら新たな高齢者医療制度の施行に向け、必要な対応を進めていかなければなりません。

国保中央会といたしましては、このような動きを見据えつつ、本年も引き続き、都道府県国民健康保険団体連合会をはじめ全国市長会、全国町村会などの関係団体の皆様と連携を図りながら、諸制度の安定的かつ円滑な運営の確保を図るとともに、全ての国民が給付の平等と負担の公平のもと、安心して医療を受けられる国民皆保険を堅持していくため、最終的な目標である医療保険制度一本化の実現に向けて、これまで以上に努力を続けて参りますので、なお一層のご支援、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新しい年が希望に満ちた幸多い年になることを心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成二十三年　元旦